

令和4年3月定例会一般質問

通告 5

質問 新型コロナウイルス感染症の中での災害時避難所運営の見直しについて

答弁 臨機応変な対応ができるよう心がけます

6 番 松野 美哉子 議員

【質問：松野 美哉子 議員】

6 番、松野美哉子でございます。新型コロナウイルス感染症の中での災害時避難場運営の見直しについて質問いたします。

現在の中標津町地域防災計画は平成 26 年、2014 年に改訂されたもので進められております。大地震などの災害時に避難所へ集まる避難者の健康管理指導や防疫計画の中で、インフルエンザ感染症対策の記述はありますが、中標津でも猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症発生前の計画であります。オミクロン株が幼児、小中学生さらには家族へと感染し、多くの町民が不安でつらい思いをいたしております。



その経験をして、30 年のうちには来るであろうと言われている大地震への不安と、その時が新型コロナウイルス感染症の中での避難所であったのならと不安を重ねて持つ町民もおります。

スーパーのレジ待ち、スポーツ観戦や映画館での一席空けることなど、非日常の中での日常で考えますと、災害時の避難所収容人数はほぼ半数になります。

避難所収容人数計画の中では、総合文化会館、総合体育館が 700 人、各小中学校では 300 人、各町内会館は施設の大きさなどにより、一人当たりの専有面積から 30 人から 200 人と計画されております。現在のようなコロナ禍の中では避難所収容人数の削減は必要と考え、さらなる研究をして避難所を増やすことなどが望まれます。

冬季の間でも避難所として使用できる公共施設の割り出し、また民間企業への協力依頼など、町全体で助け合える仕組み作りや、自宅や敷地内での避難生活ができない状況になった場合に、各家庭所持のテントなどを避難所近くのグラウンドなどで設営していただき、避難所の密を回避する方法を考えておくことで、町民の協力も得られるのではないのでしょうか。

平常時のうちに安心して身を守るために集まる避難所運営の見直しをして、町民に周知

を早急に行うことが必要であると思われますが、町長の御見解をお聞かせください。

【答弁：町長】

松野議員御質問の新型コロナウイルス感染症の中での災害時避難所運営の見直しについて御答弁申し上げます。

議員御説明のとおり、新型コロナウイルスの感染リスクのある中、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設や運営、災害発生時に三密を避ける避難のあり方が課題となっております。

当町のコロナ禍における避難所開設運営の考え方でございますが、現状の指定避難所全体の収容人数は約 6000 人でありまして、それに対し町の備蓄計画、避難所生活者数の想定は約 3000 人となっております。仮に収容人数を半数とした場合でも、現状の指定避難所の数で収容スペースを確保できるものというふうには考えております。

また、指定避難所の収容人数を考慮し、災害発生時は可能な限り多くの指定避難所を開設いたしますが、避難所運営には多大なマンパワーが必要となりますので、開設する避難所の数が増えると人数不足により円滑な避難所運営への支障が懸念されることから、避難所を密にしない工夫として、避難所となる学校の場合には、従来は主に体育館を居住スペースとするところを教室にも拡大したり、避難してきた世帯ごとに仕切られた空間で過ごせるよう、避難所内に設置する屋内テント 500 張を整備しているところでございます。

また、改めてではありますが、避難とは難を避けることでありまして、災害発生時に三密を避ける避難のあり方として、広報紙等により分散避難を周知啓発しております。

具体的には災害が発生、または災害が発生する恐れがある場合において、避難が必要な場合には、町が指定する避難所に行くだけが避難ではないことを日頃から意識しておくこと。緊急時には命を守る行動として、自宅が安全であれば在宅避難、自宅が危険な場合には親戚や知人宅への避難、それぞれ各自にとって最適な場所へ避難する分散避難を行うことが重要であるというふうに考えております。

なお、3 月の全戸配布に向けて準備を進めております今年度改訂いたしました中標津町防災ハンドブック、この中でも分散避難、それから災害時の避難行動を啓蒙しているところでございます。

また令和 4 年度には町内会等との連携による避難行動や避難所開設運営などの防災訓練を計画しており、避難訓練を通して各自の避難行動の確認、コロナ禍を想定した避難所の開設から運営までの手順の確認、さらには町が保有している防災資機材を実際に使うことで、災害発生時に防災資機材を安全に使えるよう、使用方法や防災活動に必要な知識、

技術の習得を目指して取り組んでまいりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。

【質問：松野 美哉子 議員】

6 番、松野美哉子でございます。

避難所生活は学校などの広い体育館で住み合うイメージでありましたが、教室の使用まで広げ、密集、密接、密閉を回避する計画や 500 張のテントも準備があるとのことで、妊婦さんや乳児、幼児のいる御家庭も周りに少しでも迷惑をかけずに、身を守るために集まる最初の場所に考えることができると安心されると思います。

先ほどの質問に住宅敷地内での避難生活ができない状況になった場合の各家庭のテントをグラウンドなどで設置する。それで密を避けるっていう町民の協力をいただくっていうことの方法は考えられないでしょうかっていう質問の入れたんですけれども、そのことについて町長の御見解をお知らせください。お願いします。

【答弁：町長】

はい、再質問にお答え申し上げます。

まず一つは、弱者を守ることは非常に大切なことでございますので、そういった方々を意識した避難所の運営をしなければいけない。それと家族との快適さでありますとか、そういったのもですね、非常に重要な部分であります。長期にわたる場合などですね、特にそういった家族の絆でありますとか、快適さというのは重要視されると思いますので、そういったことも含めて、臨機応変にですね、対応できるように心がけていきたいというふうに考えております。以上です。

【質問：松野 美哉子 議員】

ご返答ありがとうございます。ちなみに 500 張の用意されたテントというのは 1 張り何人用のテントになるんでしょうか。

【答弁：町長】

1 張 4 人用でございます。